

ゴマシジミ

チョウ目シジミチョウ科

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

国カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

Maculinea teleius hakusanensis Fujioka

選定理由

露岩地に生えるカライトソウを食草とし、幼虫期にアリと共生するため、生息環境は限定され生息地は局限される。

形態

開張30~40mmの小型種。オスの翅表は黒褐色に薄く藤色を帯び、裏面は淡い褐色に黒色斑が散らばる。メスはオスに似るが藤色を欠く。

国内分布

北海道、本州、九州に分布し、本州では、青森県と岩手県北部、関東・中部地方、中国地方の3地域に分布する。

県内分布

白山周辺の大長山・赤兎山周辺、砂御前山周辺、白山北方稜線の妙法山から奈良岳・見越山周辺、丸石谷など、概ね標高1,000m以上の露岩地に生息する。現在のところ山道沿いや沢沿いしか調査されておらず、分布の実態は良くわかっていない。

生態

年1回7月下旬から8月中旬に発生する。若齢幼虫は、カライトソウの花穂を食べて育ち、後にクシケアリ類によって巣中に運ばれる。アリは幼虫の出す液をなめ、幼虫はアリの幼虫を食べて成長する。蛹化、羽化ともにアリの巣中で行われ、翅が伸びきらないうちに巣からはい出し、翅を伸ばす。

生息地の条件

標高は概ね1,000m以上で、カライトソウが生える露岩地を生息場所とするが、幼虫期にアリと共生するため、特殊な生息環境を必要とする。

生存の危機

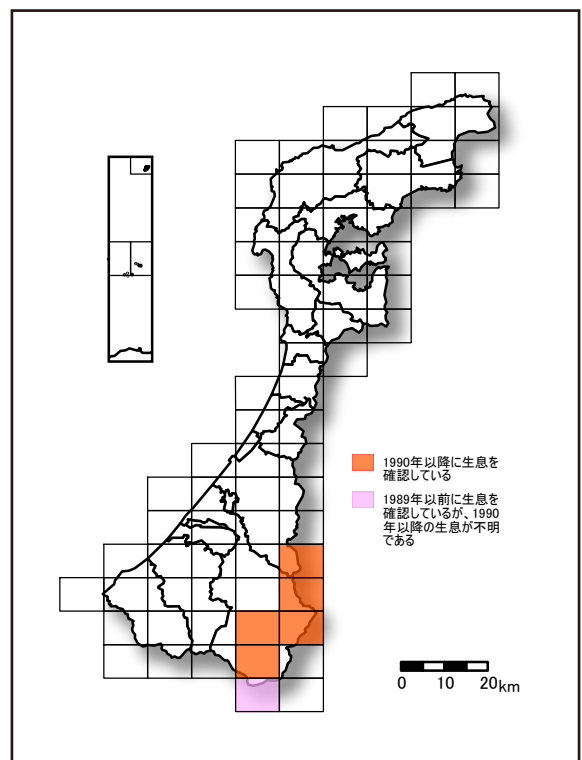
生息地は、標高1,000m以上の露岩地であり、人間活動があまり活発に行われていない地域である。また、判明している生息地も山道沿いや沢沿いなどわずかであり、調査が進めば新たな生息地が発見される可能性は高い。生息地は小さくとも広い範囲に散らばっており、大きな破壊が進むおそれはないと思われるが、狭い生息地は山岳道路の開設などで、簡単に消滅してしまう。(A)

参考文献

福田晴夫ほか 1984. ゴマシジミ. 原色日本蝶類生態図鑑(Ⅲ): 262-266. 保育社. 大阪.



写真提供者: 松井正人



県内の分布